

2020年代の中国経済—対米貿易戦争下での構造改革の行方

大東文化大学 経済学部教授 内藤二郎氏

影を落とす米中対立と急がれる構造改革

米中摩擦の長期化の可能性が極めて大きいと思います。一時的に何らかの合意があっても解決には程遠いと思います。中国の景気低迷がそのことによって続く可能性もあるし、財政リスクが高まっていますので、政策の幅もどんどん狭まってきています。

最もよくないのは、国内要因です。今の習近平氏は米中関係を言い訳にして構造改革を先送りしているように思えます。もっと言えば、アメリカから要求されていることをきちんと行えば、ある程度中国国内の構造改革につながる。逆に言えば、構造改革をきちんとやれば、アメリカも文句を言いにくくなるような状況が生まれる。それなのに何もやらない。中国が、補助金の問題、国有企業改革、などをきちんと進めればアメリカも突つきにくいのですが、それがちゃんと進んでいないのです。

中国はすでに潜在成長率に到達してしまった。これからはイノベーションしかない。何としても急がなくては行けない。中国で、ビッグデータを集めて、多少外国から技術を盗用してでも、自分たちのやり方でとにかくやる。そういう姿勢が露骨に出てきています。それを習近平的手法で展開し、中国製造2025を掲げてみたり、一帯一路を大きく展開したり、社会主義強国に行く打ち出ししたりしたことで、アメリカとしても放置できなくなってきたのです。

もともとアメリカは自国のGDPの規模と比べて60%~70%程度に上がってきた国を必ず押さえに掛かります。70年代の後半から80年代の日本がそうであったし、それ以前のイギリスもそうでした。中国がまさしく今がそういう状況です。ですから、米国の中国への攻勢は必ずしもトランプ個人の要因と見ない方が良いでしょう。

2018年10月4日にハドソン研究所でペンス副大統領が演説をしました。その際、中国は独裁主義であると言い切り、他に類を見ない監視国家を築いて米国の技術を盗用してますます拡大して侵略的になっていると強い口調で中国を批判しました。一帯一路についても、「中国共産党は昨年从中南米に対し台湾との関係を断ち、中国を承認するよう説得し台湾海峡の安定を脅かしている」、「中国政府が、政治、経済、軍事的手段とプロパガンダを用いて米国に対する影響力を高めて米国内での利益を得るために政府全体にアプローチをかけている」と主張しました。

これはアメリカからの強いメッセージであり、与野党関係なく中国に対するスタンスをアメリカが転換したと見るべきでしょう。

スタンスはどう転換したのか。

従来の関与政策から脱却し、牽制ないし抑圧へと転換したのです。これまでは中国は改革開放を行ったとは言え体制は違う国である。価値観も違うので対立ばかりではないアプローチが必要である。中国も徐々に変わりつつあり、中産階級が増えて豊かになっていけば、自由や民主という価値が通じるのではない。そう考え、そこになんとか中国を持っていくためには関与政策が必要だと考えられてきました。そして対立、抑止、抑圧ではなくて、できるところについてはさまざまなサポートをしてきました。もちろんアメリカの民間企業は中国の巨大なマーケットに注目をしてきたわけです。

習近平氏の目指すもの

ですから、台湾問題を含む安全保障政策、知財、技術移転、イノベーション、情報管理などをめぐる法律と政策等に関する重大な懸念と反発が強まっています。

台湾問題も習近平氏の手法が反映しています。習近平氏の根底にあるもの。その一つは海に対する極めて強い執着です。尖閣諸島、台湾海峡、南沙諸島。これらの問題への中国の強硬姿勢は習近平氏の海に対する執着からきていると思われています。

改革開放以降、習近平氏は後ろ盾がない初のトップです。胡錦濤氏までは鄧小平氏が路線を引いて決定していたトップリーダーですが、習近平氏はそうではないのです。今、毛沢東氏への先祖帰りをしているようにも見えますが、毛沢東と同じでも困るし、鄧小平と同じでも困る、胡錦濤、江沢民と自分を比べても困る。そのくらいに思っているかもしれません。とは言え、歴史に自分の名を残す方法は少ない。就任した時から言われてきたことは、歴史に名を残すために台湾をどうにかすることでした。ですから台湾問題は習近平氏にとって今後極めて大きな問題になってくるでしょう。それを含めた海の問題には力を入れてくるし、強引にもなってくるだろうと思います。

国際的な大きな視野で見ておかなければならないのは、米中関係のもつれは、中国製造 2025 や 5G をめぐる覇権争いなどで、当面解決しそうにはないということです。

そうであっても米中が話し合いのテーブルに着けるようになるためには、中国が先ほど述べた国有企業の問題、産業補助金の問題をきちんと解決をすることです。アメリカの判断は、中国がきちんとそれを担保するだけの国内法をつくるかどうかにかかっています。中国共産党はそう簡単に法律をつくりません。我々が言っているのだから大丈夫だ。中国はそう言って突っぱねますが、アメリカはきちんとした法律ができるまでは信用しないわけですから、当面解決しそうにはありません。

情報通信をめぐる覇権

その中で、5G をめぐってデカップリングが進んでいくと言われています。情報通信の仕組みが世界で2極分化していくというようなことになると大きな負担になります。そこで心配されているのは BREXIT 以降のイギリスです。中国はかなり関与してくるでしょうし、アメリカがそこに割って入ってそうさせまいとするでしょう。イギリスをめぐる米中の動きが注目されます。

米中における二つの罫についてご紹介します。トゥキディデスの罫とキンドルバーガーの罫です。

トゥキディデスの罫：アメリカの政治学者グレアム・アリソンの造語。トゥキディデスは古代ギリシャの歴史学者で、紀元前5世紀のスパルタとアテネとの争いにおいて、最終的にスパルタが勝って新たな覇権国になるけれど、結果として国家が衰退していった史実を描いています。従来の覇権国と新興の国家が折り合えずに最後には戦争に至ってしまうというのがトゥキディデスの罫です。極端な見方ですが、米中もそのような対立関係に向かっているのではないかということです。

キンドルバーガーの罫：これはジョセフ・ナイ氏が命名した言葉。世界恐慌の時、1929 年から 30 年代にかけて、世界は保護主義化してブロック経済に陥り、各国で自国第一主義がどんどん広がっていきした。資源のない国は資源を求めて植民地獲得に動き、第二次世界大戦へと発展していきました。その時代、何が起こっていたのか。1930 年代にイギリスからアメリカへと覇権が交代をします。その時点で、アメリカは自国第一主義であり、ある種、国際公共財と言われる、安全保障、国際金融などに対する役割を担わなかった。アメリカの経済学者であるキンドルバーガーがそう指摘しました。それが今の世界の状況と重なります。

よく比較されるのはリーマンショック後の世界です。世界は多極化していくと言われますが、私は無極化ではないかと感じます。つまり誰もリーダーになれない、しかも自らがリーダーになることを受け入れないということです。現在のトランプ大統領を見ていると、その念を強くします。国際公共財が衰退することによってどんどんリスクが高まっていき、不安定な国際社会になっていくと思います。

権力の集中を図る習近平氏

習近平氏が今行っているのは、党・政府は構造改革を遅らせて、アメリカのせいになっているということです。中国はもともと政府よりも党の方が強いのですが、習近平体制下ではそれがあからさまに出て来ています。同氏は 2 期目に機構の大改革を行い、いろいろな物事を決定するところはすべて党としました。従って、國務院の総理の権限もどんどん弱くなって、すべてを習氏が決定する体制ができ上がりました。

このような体制の下で、政府の政策が硬直化し、いろいろな局面で機能的対応が迅速にできなくなっています。仮にトップが判断を誤り、失政しても、誰もそれを正すことができませんし、逆らえない。逆らって罰せられるのを避けるため、自分では何の判断もせずにおうかがいを立てることに終始する。その結果、行政の効率が落ち、決定に時間がかかっています。

コロナウイルス感染が拡大した時、武漢市長は「許可がなかったら発表はできない」と発言していました。市長でさえ習近平氏の許可なく発表していいのか悪いのかわからない。自分では判断できないという恐れを露呈していました。サボタージュではないけれど積極的に動かないほうが得であるとみんなが思っているのです。

中国の夢

中国は、今、構造改革を進めなければなりません。今なら財政的余力もなくはない。今やっておかないと手遅れになる。少子高齢化がどんどん進み、米中関係もどうなるかわからない。多少苦しくても、今、構造改革を進めておかないと中国が世界のリスク要因となります。

習近平氏の手法を見ると心配になります。今年は多方面でアクセルを踏んで景気を維持するでしょう。中国にとってこれから重要なのは、第 18 回党大会の「五位一体の経済建設」と「2 つの百年」です。中国は 2 つの百年を迎えます。

一つは、来年 2021 年。中国共産党結党 100 年です。この年には小康社会、貧困人口が限りなく 0 に近づいて、全国民の衣食住が足りた社会を「完成する」と言っています。「つくる」ではなく「完成する」のです。その上で 2035 年までに「社会主義現代化」を行うことを掲げています。

もう一つは 2049 年。中華人民共和国建国 100 年です。「富強・民主・文明・調和の美しい社会主義現代化強国」を掲げています。これが中国の夢であり、中華民族の偉大な復興である、と近年そういう表現の仕方にどんどん変わってきています。昨年ようやく行われた党の 4 中全会とその後の中央経済工作会议などでも毛沢東時代のような表現が多く見られます。例えば社会主義強国。一番目立ったのがマルクスレーニン主義。こういう表現がどんどん出てきています。

中国は、今、そういう意味でも少し不安定化していると思います。